

平成29年度
第1回東久留米市
総合教育会議議事録

平成29年4月28日

東久留米市・東久留米市教育委員会

平成29年度第1回東久留米市総合教育会議

平成29年4月28日午前10時50分開会

中央図書館 視聴覚ホール

議題 (1) 習熟度別授業(小学校算数)について

出席者(6人)

市	長	並木克巳
教	育	長
委	員	直原裕
(教育長職務代理者)		尾関謙一郎
委	員	名取はにわ
委	員	細川雅代
委	員	細田初雄

東久留米市教育委員会会議規則第13条の規定に基づき出席を要求した者の職氏名

企画経営室長	佐々木弘治
企画調整課長	長澤孝仁
教育部長	師岡範昭
指導室長	穴戸敏和
教育総務課長	小堀高広
学務課長	島崎修
生涯学習課長	市澤信明
図書館長	岡野知子
主幹・統括指導主事	荒井友香
南町小学校校長	伊藤幸一

事務局職員出席者

庶務係長	鳥越富貴
------	------

傍聴者 2人

◎開会及び開議の宣告

(開会 午前10時50分)

- 並木市長 ただ今より、平成29年度第1回総合教育会議を開催します。本日は、教育長、教育委員の皆さん全員にお集まりいただいています。また、南町小学校の伊藤幸一校長にもご出席をいただいています。ありがとうございます。
-

◎傍聴の許可

- 並木市長 傍聴の方がお見えになっていますので許可したいと思います。よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

それでは傍聴を許可します。暫時休憩します。

(休憩 午前10時51分)

(傍聴者 入室)

(再開 午前10時52分)

休憩を閉じて再開します。ここで傍聴の方にお願ひがあります。傍聴していただくに当たりましては、お手元にお配りしている「教育委員会傍聴人規則」を準用させていただきますのでご了承願ひます。なお、お配りしている資料についてはお入用の場合はお持ち帰りいただけます。

◎習熟度別授業（小学校算数）について

- 並木市長 それでは本日の議題であります、「『確かな学力』の育成について」に入ります。会議に先だち、南町小学校で6年生の算数の授業を参観させていただきました。円の面積の算出についての単元で、東京都が進めている「習熟度別指導」での授業でした。

傍聴の方もいらっしゃいますので、先ずはどのような授業であったのか、習熟度別指導とは具体的にはどのようなものかについて説明していただきたいと思ひます。

- 穴戸指導室長 私から習熟度別指導の概略について説明します。本日資料としてお配りしています「東京方式 習熟度別指導ガイドライン《小学校算数》」をご覧ください。

国や都が実施している学力調査の結果から、算数科においては習熟度の遅れがちな児童の割合が増加していることや、習熟の進んでいる層から遅れがちな層まで幅広く分布している現状が明らかになっています。そのため、「つまずきに応じた指導の工夫」や「前学年までの内容に立ち戻る指導の徹底」が求められています。これまでも各学校において実態に応じた習熟度別指導を行ってきたところですが、現在の学年の内容が身に付いていないまま進級し、次の学年の学習内容が分からない児童が一定程度いる状況には変わりありません。このような現状を踏まえ策定されたのが、この「東京方式 習熟度別指導ガイドライン《小学校算数》」です。

ガイドラインには次の内容が記されています。第1に、一人ひとりの児童・生徒の学力を伸長する観点から「習熟の遅いコース（補充コース）」は教科書の各単元の基本的な内容までを、「習熟の早いコース（発展コース）」は発展的な内容を扱うなど、取り扱う内容に差異を設け、設定した学習到達度まで確実に引き上げていくこと。第2に、学習指導要領に従っているのであれば教科書に記載された内容全てを教える必要はなく、例えば、例題レベル

の問題等の各単元の基本的な事項のみを扱ったとしても問題はないこと。第3に、習熟の程度に応じた習熟度別指導の徹底、学年を超えて分からない箇所に戻り指導の徹底、「できる」「分かる」まで繰り返し指導の徹底を行うこと。現在、指導方法工夫改善加配による習熟度別指導を小学校算数科で行う際には、「東京方式 習熟度別指導ガイドライン《小学校算数》」に基づいて行っています。

続いて、習熟度別指導の必須事項について説明します。配付資料の7ページから8ページをご覧ください。習熟度別指導を展開するためには、児童の学習内容の理解や習熟の程度等に応じて学習集団を編成し、その学習集団の特性に応じた指導を工夫することが重要です。

まず、「(1) 指導方法・指導体制について」は次の5点が大切です。1点目、児童の特性の理解と習熟の程度の的確な把握。2点目、習熟の程度等に応じた効果的な学習集団の編成。3点目、既習事項の学び直しや反復学習などによる「補充的な指導」の実施。4点目、発展的な内容の学習や課題学習などによる「発展的な指導」の実施。5点目、学習集団の特性に応じた教材・教具等の活用です。「(2) 校内の推進体制等について」は3点あります。1点目、習熟度別指導推進のための校内委員会等組織の設置。2点目、校内推進計画（基本方針、実施計画等）の作成。3点目、児童や保護者への説明及び意見聴取です。8ページになりますが、「(3) 具体的な目標（達成水準）の設定について」は2点です。1点目、東京ベーシック・ドリルのクリア。2点目は、学力向上を図るための調査（小5）の目標値のクリアとなっています。具体的には9ページ以降に実施例が掲載されています。9ページにあるとおり、習熟の程度の的確な把握をします。次に10ページですが、児童の理解や習熟の程度等に応じた効果的な学習集団の編成を行います。本日もAコース、Bコース、Cコースと分けていました。続いて11ページ目になりますが、学習に遅れやつまずきのある児童の集団、補充コースにおいてですが、必要に応じて前学年までの既習事項の学び直しや反復学習による「補充的な指導」を行います。続いて12ページですが、習熟が早く、さらに学習を進めていきたい児童の学習集団、発展コースにおいては発展的な内容や課題学習などによる「発展的な指導」を行います。13ページ目になりますが、効果的な学習指導を推進するため、学習集団の特性に応じて教材・教具等を工夫して活用します。以上の内容で習熟度別指導を行っています。

○並木市長 ありがとうございます。本日の視察内容、及び習熟度別指導の概略について説明をいただきました。

ふだん行われている一般的な授業とどのような違いがあるのかについて、もう少し詳しく説明していただけますか。

○穴戸指導室長 習熟度別指導の期待される効果について説明します。算数は積み上げ型の教科になりますが、基礎的な知識や理解、技能を身に付け、それらを活用しながら思考力・判断力等を育むことが大切になります。小学校算数においては、例えば、 3×4 の計算ができなければ四角形の面積を求めることはできませんし、四角形の面積を求めることができなければ土地の面積を計算するといったことができません。そこで、全ての子どもたちが基本からスタートし、スモールステップで完全習得を目指す習熟度別指導を行っていきます。「補充的な学習」においては先ほども説明しましたが、個々の学習状況に応じて前の学年に戻り指導や基礎的な問題の反復学習を行うなど、「できる」「分かる」まで繰り返し指導の徹底を図ります。

「発展的な学習」においては、基礎・基本を十分に身に付けている子どもたちに対して、一人ひとりの能力、適性、興味、関心等に応じてさらに学習を広げたり、深めたり、進めたりする指導を推進します。これらを通して、推進のための委員会での話し合い及び推進計画によって、個に応じた的確な指導ができる効果が期待されます。また、立ち戻る指導により児童のつまずきが減り、学習意欲が向上する効果も出てきます。

さらに、具体的な達成水準の設定により教員の意識が高まり、より授業力を向上させる取り組みができることも考えられます。

○**並木市長** ありがとうございます。児童の実態に応じて指導の工夫をしていくという説明がありました。本日は視察させていただいた南町小学校の校長先生にも出席いただきましたので、実際の状況をお聞かせいただければと思います。

○**伊藤南町小学校長** 南町小学校の児童の実態についてお話しさせていただきます。本校の児童は大変素直な子が多く、授業中も積極的に発表したり、進んで話し合いをしたりという活動に取り組むことができる子が多いのが特徴です。ただし、学力の状況としてはお手元にお配りしました「平成28年度東京都『児童・生徒の学力向上を図るための調査』の結果」をご覧くださいますと、算数における子どもたちの学力の実態としては、習得目標値未満の児童の割合がほぼ東京都と同じぐらいです。つまり、補充が必要な児童は東京都の平均と同じぐらいですが、到達目標達成の児童の割合は東京都の平均を大きく下回っている状況です。

先ほど指導室長がお話しされたA、B、Cで申し上げると、Aの層が「少ない」、Bが「とても多い」状況になっています。このような状態ですのでガイドラインに沿った指導を展開していくわけですが、本校の実態に合った習熟度のグループ編成には工夫が必要になってきます。

○**並木市長** ありがとうございます。学力調査の結果を踏まえて、児童の実態をご説明いただきました。こういった実態を受けて学校としてどのような工夫をされているのかをお聞かせいただければと思います。

○**伊藤南町小学校校長** 本日の授業では円の面積の学習をしましたが、グループはレディネステストをもとにしてA、B、Cの三つにグループ分けをしました。点数だけで切ってしまうと、どうしてもAグループが少なくなってしまう実態がありますので、Bグループの子も少し混ぜて編成し、授業が成立するグループ分けをしていきます。本日の授業では、既習事項の確認についてはどこのクラスでも行いましたが、CグループではB、Aのグループに比べると、既習事項の確認をほかのグループよりも丁寧に扱っています。

今回は「半径10cmの円の面積はおよそ一辺が10cmの正方形の何倍になるか」という、A、B、C共通の問題でしたが、Cグループに関しては児童の思考を促すために具体物で操作できる正方形、円、内接する正方形の紙を用意するなどし、実際に操作しながら問題の解決に取り組みました。Bグループについては、自力解決をした後で3名ほどのグループになり、お互いの意見を聞き合う中で考えを深めていく、言語活動を重視した取り組みをできるだけ取り入れるようにしています。その後、全体で発表していきます。AグループについてはBグループとそこまでは同じですが、半径が5cm、15cmと、10cmではなかった場合にも同じことが当てはまるかということで、教科書には載っていませんが発展的な部分について検討を加えたりしています。

○**並木市長** ありがとうございます。どのクラスを見せていただいても集中している様子が

分かりましたので、いろいろ工夫されていると感じたところです。子どもたちや保護者などは、こういった習熟度の授業についてはどのように捉えているのかお聞かせください。

- 伊藤南町小学校長 特にCグループの補充的な指導を必要とする児童にしてみますと、習熟度別学習ではない学習をした場合には、どうしても「お客様」になってしまったり、なかなか自分の思っていることが言えなかったり、分からないという思いが残ってしまいがちです。しかし、習熟度別の指導の中では分からないことは分からないと言っていいのだという雰囲気があり、さまざまな指導の手だてを教員が工夫していますので、安心してそのグループの中で学習することができます。また、Aグループでも、既に塾等に行っていて今日の内容は全部分かっている子どももいるわけですが、その答えに辿り着くまでの考え方の違いみたいなものを出し合うことや、教科書に出ていないことも発展的なことで触れることができることで、学習意欲の向上にもつながっていると思います。

保護者の声については、学校公開でも習熟度別の算数の授業を必ず1年間の中で3年生以上のどの学年も行い、見てもらえるよう学校公開の中で工夫していますので、学校公開のアンケートを読ませていただくと、「自分の子どもの状況に応じたクラス分けがされていて、子どもたちが伸び伸びと学習に取り組んでいる」といった声がたくさん寄せられています。

- 並木市長 ありがとうございます。個々の子どもたちに合わせた授業を展開されていて、進み方の早い子や、ゆっくりな子に対応している授業内容は素晴らしいと思っています。また、保護者の方に対しても学校公開の中で工夫されているようで、授業公開後にアンケート調査を行い、評価を得ていることを伺いました。ぜひ、今後もこういった指導をしていただきたいと思っています。

委員の皆さんも一緒に南町小学校の授業を見せていただきましたので、いろいろご意見・ご感想を伺いたいと思います。

- 細川教育委員 伊藤校長先生、本日はありがとうございます。3グループとも子どもたちが自分のペースに合わせて学ぶことができていると思いました。特に、Aグループでは、いろいろな考え方を持っている子がいることが分かりました。ひたすら数える、升目を数えるといった子もいれば、1枚の四角の紙を切り張りして皆に説明することがとても上手だった子、30度の角度の二等辺三角形を二つに合わせて正三角形が何個あってと、理論的に説明する子、先生にもらった四角い正方形を二つにして三角形が何個分あってという、ほかの生徒が理解できるような説明がきちんとできるアイデアあふれた子もいました。Cグループでは、分からないながらも自分たちで「これはこうだったね」などと教え合っている姿が見られました。授業の最後に児童に話を聞いたのですが、「算数がとても苦手で嫌いだったが、田中先生に出会って算数がちょっと楽しくなった」と言ってくれた児童がいました。その先生はいろいろとアイデアあふれた教え方をしてくれていて、とても良いクラス分けだったと思いました。各クラスの先生方が子どもたちが理解できるように分かりやすい言葉で説明されており、教え方についても相当勉強されていると思います。

小学校のうちは「できた」「分かった」ということが一番大切だと思います。そういう経験があると次につながって、自信をもって、楽しく授業ができるようになっていきますし、子どもたちのやる気にもつながっていくと思いました。

- 並木市長 ありがとうございます。私も各クラスを見せていただき本当にそれぞれのクラスで工夫されていると思いましたし、冒頭にも述べましたが、児童がすごく集中していると

いうことは大きな意味があると思っています。それは授業が分かった、分かりかけてきているからこそですし、個に対応した指導の仕方、習熟度別という中で個々に対応をしていただいているからなのだと思います。算数は苦手という児童もいるでしょうし、「学校での勉強は将来何に使うのだろうか」と思っている児童も中にはいるだろうと思います。今後は学校の授業の必要性などについて触れていく機会があっても良いのかなと思っています。

○**細田教育委員** 校長先生、今日はありがとうございました。算数嫌いの子がいることはよく聞いていますが、習熟度別指導で丁寧に指導を受けることで、特定の教科への苦手感を払拭できるのは良いことだと思います。算数の授業での習熟度別指導は有効だと感じています。しかし、表面的な知識が身に付くだけでは不十分だと思います。市長のご指摘どおり、ただ計算ができるようになっただけでは、これが将来何の役に立つのかと思う子どもも出てくると思います。活用する場面があってこそ、深い学びや意欲につながるとしています。

例えば、算数は論理的な指導力を育てると言われていますのでゴールを設定し、そこに向かうための道筋を考える力は将来に向けて必要な能力の一つだと感じています。

○**並木市長** ありがとうございました。各クラスそれぞれ個々に合わせた授業を工夫していただいている中で子ども同士がいろいろな考えを交わし合ったり、また意見をすり合わしたりという場面がありましたが、そういった言葉にすることで頭の中が整理できたりとか、改めて理解が深くなっていくこともあろうかと思っています。

今日は算数の習熟度別の授業を見せていただきましたが、これはいろいろな教科にも効果があるのではないかと思います。

○**名取教育委員** 東京都では、算数と数学と英語で習熟度別指導を実施していると伺っています。特に算数、数学というのは積み上げ式というのでしょうか、要するに、ここが分からないと次は分からないというものなので、分からないまま通り過ぎてしまうと後で大変なことになってしまうことがあります。現実には、大学でも予備校の先生に来てもらって数学の補講をやっているという話も聞きますが、その基礎は実は小学校なのだと思うのです。

ですから、小学校のうちからきちんとみんなが理解しながら階段を上っていくことができないと、将来本当に困ってしまうことがあります。私も経験がありますが、よく分からないことを聞かされてじっと座らせているつらさ、どこかに逃げたくなってしまうような、ああいう思いをさせたくないと思います。分からなくなってしまうとすっかり意欲も失ってしまいます。

算数や数学嫌いの子は一定割合いるのではないかと思います。それをできるだけ早く発見することがとても望ましいですし、また逆に、すんと分かればそれでとてもやる気が出てくると思います。単に学級規模を縮小した少人数授業ではなく、今日のように効果的な習熟度別指導を実施するというのは良い方向だと思って見せていただきました。

○**並木市長** ありがとうございました。今回は習熟度別ということで3クラス3段階の授業を見せていただきましたが、こういった形で授業していることについて、さらにご意見はありますか。

○**名取教育委員** 確かに、見てみると、学習が早いグループとややおぼつかない子どもたちがいると思います。特に、Cグループの、基礎を理解するのにじっくり時間がかかる子どもたちに対しては先生方がとても苦労して教えていらっしゃると思いました。落ちこぼれそうになっている子をどうフォローするのがとても大事だと思いますし、また、習熟度で一番理解の高

いAグループの子みんなが到達目標値よりも超えてくれれば、東京都よりも学力が高いということになりますね。それが多分、目的ではないかなと思って見ていました。見てみると、塾等で教わった数式をぴたっと並べて知らん顔している子もいましたので、逆にあれでは考えていないのではないかと思います。

地道に駒を数えながら、一体どのくらいになっているかを調べるということは、数字は合っていないかもしれませんが、思考の過程としてはすごく貴重なことです。そういう意味では、単に頭でぱっと理解していることが本当に応用力があることになるのかということとまた別のことなので、その辺を見定めながらうまく指導していただけるとありがたいと思います。そのためにも、こうやってグループ分けするというのは、すごく意義があるのと思いました。

○並木市長 ありがとうございます。各グループでは工夫されながらやられていて、最後に見たグループはまだ公式を教わる前の段階で公式に辿り着く検証するというもので、それぞれの検証の仕方というのでしょうか、子どもたちはいろいろ発想するなというのを感じました。ああいうところで意見交換しながら、よりその考え方が掘り下がっていく、また、理解を深めていくことをねらいとしているのだろうと感じられましたし、それが最終的にうまく進んでいると思いました。いろいろな現場でも知恵を絞られているのだなと思いました。

また、A、B、Cそれぞれのグループの到達目標としては、最終的に公式はどういった形でつくられていくのかということに結びつけていくことになりますが、それぞれの歩みの中で進まれたのだと思っています。先ほど委員が言われた東京都の水準と比べたときにも、そういった発想をより広げていけるサポートを、こういった習熟度別授業の中で展開していただけるのだろうと思いました。勉強を好きになる、つまずいたときにしっかりフォローしていけることでは大変機能してきているのではないかと、学習に向かう気持ちはこういった中で強くなっていくのだろう、大きな効果を生みやすい教材があると思いました。

○尾関教育委員 今日C、B、Aという順番で見ましたが、円の面積の最初の授業ということでC、B、Aの内容がものすごく違っていることではなかったわけです。意欲という点においては、Cグループで見た時に、復習の段階で先生が一言言うと、ぱっと意見を活発に言っている子が何人かいました。習熟度別ではなく単純に2クラスで割った場合は、発言しようと思っても、ほかの子に言われて意見が言えないとか、手が挙がらないこともあると思いますが、「はい」と意見を言えるところに、C、B、Aと分けたのは良かったと思います。手を挙げて先生に意見を言える、自分の答えを言えるのは勉強に対する意欲が非常に出てくると思います。意欲が出てこないと頑張ろうという気持ちにもなってきませんから、今後、頑張ろうという気持ちが算数を中心にして他の教科にも広がっていくのではないかと思います。

○並木市長 意欲を持っていけば、他の教科にも効果が出てくるのではないかと考えています。なお、自己学習等につまずいてしまうこともあると思います。意欲を持っていても、自己の中でつまずいていってしまうことについてはどうでしょうか。

○尾関教育委員 BとAのクラスで見ましたが、3人ずつのグループになって方式を考えるという取り組みがありました。一人の子はうまく考えついたけれども、ほかの二人は考えついていない段階で一生懸命に教えたり、教えている途中で「まだ分からない」とほかの二人の子が言って、さらにまた根気よく教えているという場面がありました。自分では分かっている、さらに互いに教えることによって初めて正確な理解ができてくるのではないかと思います。

ます。教えられるほうにしてみれば、先生からぱっと言われただけでは実際に分かっていなくても分かったと言ってしまうかもしれませんが、子どもたち同士で教え合うことで初めて、分からないところは分からないと言え、共に学んでいくことができると思いました。

一方通行より互いに学び合っていくことで、卒業して社会で出た時も、人は違う考え方をするものだとして理解し、その中でどう説明し、どうやって理解してもらえるかということにつながっていくと思います。先生と生徒というだけではなく、児童や生徒同士で考え方をお互いにキャッチボールできるところが、習熟度別ではグループ分けでの議論ではないですが、学び合っていくことの効果があると思いました。

○並木市長 ありがとうございます。グループで意見交換をするということは、先ほども他の委員からも、分からないことを分からないと言える雰囲気が良いという感想がありました。グループでの教え合いや意見交換では自分とは異なるさまざまな意見を理解していく、また、説明していくということが生きる力にもつながっていくと思います。さまざまな相乗効果が生まれてくるのではないかなということも期待するところです。

○細川教育委員 小学校のうち、まずは勉強することが楽しいということを実感してもらうことが一番だと思います。中学校、高校と進学し、社会に出ても、「こうしたらできるようになった、分かるようになった」という実感があると、これから先も自分から進んで取り組んでいく大人になっていってもらえるのではないかと期待しています。

その一つとして、習熟度別指導は小学校のうちからやっていると、とても意義があると思いますので、今後も引き続き習熟度別授業を続けていただきたいと思います。

○名取教育委員 一番印象的だったのは生徒たちが集中しているところです。A、B、Cそれぞれのグループの子どもたちがちゃんと算数の授業に集中していたことに、とても感心しました。それぞれの先生方が、自分が受け持っている子どもたちに合わせて一生懸命勉強しておられ、それを授業によく生かしていることについてもとても感心しました。

Aグループが一番習熟した子たちですが、当初に配ってもらった授業の目標には、円については2倍よりも大きくて4倍よりも小さいことが分かれば良いということでしたが、Aグループは3よりも多くて4よりも少ないと、そこまで詰めて結論を出していました。多分、指導要領で想定している答えよりもいろいろ詰めたものが出てきていて、それを指導する先生がちゃんと取り上げて発表させることにより、皆さんがおっしゃったように数を一生懸命数えたり、三角形を作ったりというパターンが出てきたことは、すごく面白い授業になったと思います。

発表については、国語の問題になると思いますが、どうやってまとめるのかというときに、一人の子は「3倍」と言って、もう一人の子は「およそ3倍以上、4倍以下」と言いました。「およそ」がついて良いのかについては、私たちは「そういう場合には『およそ』は要らないよね」と言っていました。先生も算数を教えてはいますが、子どもたちに国語の力を付けるチャンスでもあるので、どうして3倍だけではいけないのか、「およそ」がいらないのかなど、その辺りをもう少し説明してもらえると、同時に国語の力も付いていくのかなという気がしました。

というのは、昨年、東久留米市の子どもたちは主語と述語がよく分からないと伺っていますので、それ以来、とても市内の子どもたちの国語力について心配しています。そんな心配はなくなったという説明はいただいています。どの教科も国語を使いますし、これか

ら英語が必修になったりすると、「国語」により考える力というのは子どもたちのベースになりますので、合わせて育てていただけるとありがたいと思いました。

○細田教育委員 教員の方々の授業力を育てるには、日々の校長先生の指導が重要だと思います。習熟度別指導についても校長先生が学校の課題を明らかにし、リーダーシップを発揮することで効果的に活用できると思います。本日、南町小学校では良い例を見せていただきました。今後も市立の各小・中学校がたゆまぬ学校改善を進めることを期待しています。

○尾関教育委員 今日は円の面積の最初の授業ということで、A、B、Cの内容の違いははっきりと分らなかったのですが、この習熟度別授業というのはここ10年ちょっとぐらいと言われていまして、特に、今の保護者の方以上の世代はそういう習熟度別を経験していないわけです。校長先生からも、必ず公開授業で習熟度別授業を見ていただいて説明しているという話を聞きましたが、保護者に理解してもらうのが非常に重要になると思います。保護者がグループによって内容が随分違うのではないかと知ると、通り一遍の理解だと、「自分の子どもがCに入っているのはおかしいのではないか」と思われるかもしれませんが、公開授業等でA、B、Cと全部見てもらって、これだけ内容に違いがあって、自分の子どもは仮にCであっても、Cのところのように理解したり、発言できているということを理解してもらって初めて習熟度別の授業の良さが分かってくるのではないかなと思います。それによって、子どもたちをこういう形で育てていこうとしているのだと分かってもらえますし、保護者と一体となっていくと目標には到達していかないと思います。

東久留米市の次代を担う子どもたちの小学校・中学校での教育はこれから重要になってくると思いますし、東久留米市の全精力を挙げて子どもたちを育成していくと市長も言われていますので、市全体でそれを目標にしていくことを共通理解できたことは有意義だったと思います。

○直原教育長 私も算数の習熟度別指導は久しぶりに見たのですが、かつては、現実に理解の早い子あるいは時間がかかる子との違いがあるにもかかわらず、それを無視して画一的な授業をやり、それで結局、先ほどもお話がありましたが、分からない子は本当に分からないまま置いていかれてしまっていたという状況がありました。それで、この習熟度別授業をやってみようとなり、当初はいろいろな懸念もありましたが、随分定着してきたと思います。指導室長からも説明がありましたように、最初は単純に少人数に分けただけだったものが、途中から、習熟の程度に応じてグループ分けをしてどの子も分かったと言える授業にしてきて、随分それが定着してきたと感じました。

われわれは義務教育を担っていますので、今日の算数でいえば計算の基礎、加減乗除や今日やった基礎的な図形の理解などは社会に出ていくことを考えると、全員が身に付けていないといけない部分があるわけですし、そこはとにかく理解が遅い子だって身に付けてもらわないと困ります。他方、理解が早い子については授業で退屈させるのではなく、どんどん伸ばしてあげる必要があります。それが習熟度別に分けて学習するねらいだと思うのですが、大分定着してきたなというのを感じました。

今日の授業の計画案を事前に見せていただきましたが、3展開でしたので3人の先生の間で十分に打ち合わせをされ、自分のグループはこういうふうにするよということをお互いで理解をしながら進めておられたのだと思います。

かつては、一人ひとりの先生が独立して授業をやっていたわけですが、こういう授業はチ

ームプレーが必要ですし、そういうのがあるからこそ今日のような授業が成り立っているのだらうと思いました。ただし、全部うまくいっているかというところもそういうわけでもなくて、最初に校長先生から報告がありましたように、これは南町小学校だけではないのですが、押しなべて本市の小学校と中学校に見られる状況ですが、今日で言えば基礎グループの指導についてはまあまあ東京都の標準的な達成度になっていますが、できる子に対する指導の効果がどれだけ出ているのかということについて見ると、まだまだ課題があるのだらうと思いました。今日の授業を見て、子どもたちの好奇心を随分と引き出す努力をしているということは見えてとれましたが、教員の皆さんの中で、さらに考える力を伸ばす努力、知的な好奇心をどうやったら高められるのかなどについて改善する努力をしていく必要があるということを感じたところです。

○並木市長 ただ今、教育長から、この取り組みが定着してきたと伺いました。本日は期待の膨らむ授業を見せていただいたと思っております。定着するまでには現場も含めていろいろ試行錯誤し、さまざま工夫されてきたのだらうと思っております。まさに、今日、子どもたちが集中して授業に向かう姿勢を見ると、本市の授業の進め方は素晴らしいと感じましたし、保護者の皆様にもご理解いただいているということも大きな意義があると思っております。

理解が遅い子には分からないままで終わらせることなく、また、できる子にはさらに挑戦していける環境を整えていければと思っておりますので、個々に合わせた細やかな対応ができるのが習熟度別の授業なののだらうと思っております。子どもたちが将来にわたって元気に羽ばたいていくためにも、さらなる工夫をし、教育活動の充実を進めていただきたいと思います。本当に今日は素晴らしい授業を見せていただいたというのが率直な感想です。

ありがとうございました。

◎閉会の宣告

○並木市長 以上で平成29年度第1回総合教育会議を終了します。本日は誠にありがとうございました。

(閉会 午前11時45分)

東久留米市教育委員会会議規則第28条の規定により、ここに署名する。

平成29年5月30日

市長 並木 克巳(自署)

教育長 直原 裕(自署)